



「手紙 ～拝啓 十五の君へ～」

2月14日（金）1限道徳で、歌手のアンジェラ・アキさんの代表曲「手紙～拝啓 十五の君へ～」を教材に授業を行いました。歌を聞き、歌詞を読みアンジェラ・アキさんの想いや、歌詞を読んで自分が大切にしたい言葉について考えました。

○みんなが大切にしたいと思った言葉

「人生の全てに意味があるから」

・苦しかったり、しんどかったり、それが全て人生になるから。

「自分の声を信じ歩けばいいの」

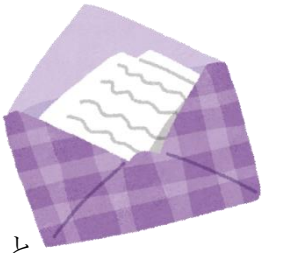
・自分が信じてあげないと周りも信じてくれないと思ったから。

・何があっても人に何かを言われても流されずに自分を信じて進むのがいいと思ったから。



「未来の自分に宛てて書く手紙ならきっと素直に打ち明けられるだろう」

・たとえどんなに仲が良くて信頼のある人でも言えないことはある。一人で悩みを抱える苦しさを未来の自分に書いたら、今の自分の気持ちを少しでも和らげることができる希望のある一文だと強く思ったから。



アンジェラ・アキさんのこの歌詞に込めた想いとは・・・

勇気づけるような言葉をかけてあげたいと思うけれど、大人になっても苦しいこと、悲しいこと、辛いことはなくなる。例えば中学生が、今苦しみを乗り越えれば高校からは大丈夫かという、残念ながらそうじゃない。また、別の悩みに出会う。でも、その痛みや苦しみを振り返った時に、「あの出来事には、こんな意味があったんだ」と思える日が必ず来ます。それに、痛みや苦しみを抱えているのはあなただけじゃないから大丈夫。ひとりじゃないですよ。

この先、それぞれの進路へと旅立ちます。同じ市内の高校に行く人もいれば、大阪以外の高校に行く人もいます。進路を決意し、そこに旅立っていくのですが、必ず何かしら試練はあります。進路実現のために頑張ってきた自分、たくさんの悩みを抱えながら頑張ってきた自分・・・そうやって頑張ってきた事実を自信にかえて、自分を信じて、旅立ってほしいです。そして5年後、20歳の自分への手紙を開ける時、どうか自分を信じていることができる人になってほしいと願っています。

手紙が作られたエピソード

実際に自分が手紙を書いたのは17歳の時。アメリカの高校生だった頃です。親にも言えない、友達にも話せないことを未来の自分に相談にのってもらおうと、30歳の自分あてに書いたんですね。自分では、その手紙の存在をすっかり忘れていたのですが、合唱コンクールの作曲のお話をいただいて、「中学生にどんな歌詞を？」と考えていた時に30歳の誕生日を迎え、母がその手紙を送ってきてくれたのです。10代の自分からの手紙を読んでも、「なんでこんなことで悩んでいるの？」と、切なくなって。もしあの時の自分に何か言えるなら、何と言ってあげるだろうと思って、ピアノに向かってるうちに生まれたのが「手紙」の歌詞でした。

手紙 ～拝啓 十五の君へ～

拝啓 この手紙読んでいるあなたはどこで何をしているのだろう

十五の僕には誰にも話せない 悩みの種があるのです

未来の自分に宛てて書く手紙なら

きっと素直に打ち明けられるだろう

今 負けそう で 泣きそう で 消えてしまいたい そうな僕は

誰の言葉を信じ歩けばいいの？

ひとつしかないこの胸が何度もばらばらに割れて

苦しい中で今を生きている

拝啓 ありがとう 十五のあなたに伝えたい事があるのです

自分とは何でどこへ向かうべきか 問い続ければ見えてくる

荒れた青春の海は 厳しいけれど

明日の岸辺へと 夢の舟を進め

今 負けしないで 泣かないで 消えてしまいたい そうな時は

自分の声を信じ歩けばいいの

大人の僕も傷ついて 眠れない夜はあるけど

苦くて甘い今を生きている

Keep on believing

負けそう で 泣きそう で 消えてしまいたい そうな僕は

誰の言葉を信じ歩けばいいの？

ああ 負けしないで 泣かないで 消えてしまいたい そうな時は

自分の声を信じ歩けばいいの

いつの時代も 悲しみを避けては通れないけれど

笑顔を見せて 今を生きていこう

今を生きていこう

